

東陽病院だより

外科の充実を図る

4月から新しく
4人の医師が着任

東陽病院では、みなさんの医療と健康を守るため、地域に密着した病院づくりに努力しています。さらに多様化、高度化する医療需要に応えるべく各般にわたる充実を図ってまいりました。平成5年度では、狭かったリハビリ施設を274㎡に拡張したため大勢の方が利用できるようになりました。また、事務的な面での改善を図ったことで、待ち時間についても以前と比較し短くなりました。

平成6年度は、外科の充実を図ることを最大の目的とし、外科医師の増員を図りました。これに伴い大原信行医師が転任となり、新たに新藤寛医師、豊田康義医師の2人が着任し、外科の常勤医師は4人となりました。



高田信一 医師
(内科)
昭和31年5月18日生
千葉大学医学部卒業



寺門 淳 医師
(整形)
昭和36年12月3日生
三重大学医学部卒業



豊田康義 医師
(外科)
昭和40年7月13日生
千葉大学医学部卒業

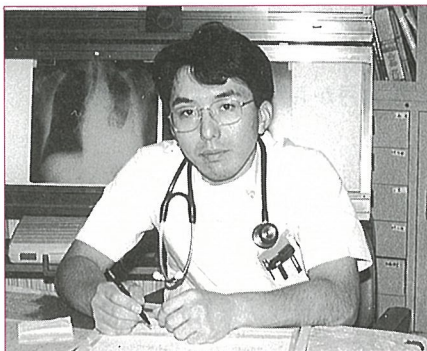


新藤 寛 医師
(外科)
昭和35年11月27日生
千葉大学医学部卒業

【新任医師】

また、整形外科の山越医師、内科の梅沢医師が転任となり、新たに寺門淳医師（整形外科）、高田信一医師（内科）が着任いたしました。それぞれ千葉大学の関連病院で十分経験を積まれた医師です。

また、15年間産婦人科を支えてきた坂野健一医師は3月31日を以て勇退されましたが、今後も嘱託医として月曜日から金曜日まで診療を行います。



東陽病院 宇野史洋 医師

ているとしまして、普通に撒くのと、先をつぶして遠くまで撒こうとするのとを比べると、先をつぶした方がホースがパンパンに張って水圧が高くなりますね。このホースを血管、水を血液に置き換

光町のみなさん、こんにちは。田植えの季節ですね。農家の方々のご苦労様ですが、おいしい「国産米」の豊作を祈念する意味でも、健康には留意していただきたいものです。今回は、割合と農家の方（特にお年寄り）に多い病氣、高血圧についてのお話です。

血圧とは、心臓が血液を体の隅々へ送り出すときに血管にかかる圧力です。心臓が収縮して血管に強い圧がかかったときを収縮期血圧（最高血圧・上の血圧）心臓が拡張して圧が弱まったときを拡張期血圧（最低血圧・下の血圧）といい、上は140以下は90以下が正常値。200程度の高血圧でも軽い頭痛やめまい、肩こりがあるくらいで、高い状態に慣れてしまうと無症状の方が多いためです。症状がないと放置されがちですが、命に係わる脳卒中や心臓病などの原因になります。では、どうして血圧が高いと良くないのでしょうか。ホースで庭に水を撒

命を縮める心の圧力

シリーズ⑥



えて考えると、先をつぶした状態が高血圧です。普通に撒けば10年使えるホースも、先をつぶして使うと数年で固くもろくなり水漏れして使えなくなります。固くなった状態は動脈硬化、水漏れは脳出血に相当します。血圧を正常に保つ意味がおわかりいただけたでしょうか。

高血圧には、副腎皮質などの病氣が原因の二次性高血圧と、原因のはっきりしない本態性高血圧がありますが、本態性が約九割を占めています。原因不明でも危険因子はわかっています。原因不明でも（ナトリウム）の取り過ぎ・肥満・運動不足などは要注意。ストレスも大敵。まさに心の圧力といえるようです。農家の方などに、重労働なので塩分を取らないと体がもたないと思える人もいます。重労働ですが、私は違うと思います。重労働で大汗をかくと塩分が不足しがちなのは確かですが、現在の日本人の食生活ではむしろ塩分過多で、うま味調味料やだしなどの素などにもナトリウムが多く含まれています。うす味に慣れた方が、長生きできると立証されています。今日からそしてできれば若いうちから始めましょう。

治療は食事・運動療法が原則で、薬はその次です。自分で直せる数少ない病氣の一つなのです。最近、家庭用血圧計が手に入りやすくなりました。血圧が高いと思ったら一度ご来院を。なお、血圧計の精度調査も行いますからお気軽にご相談ください。

健康への メッセーヂ